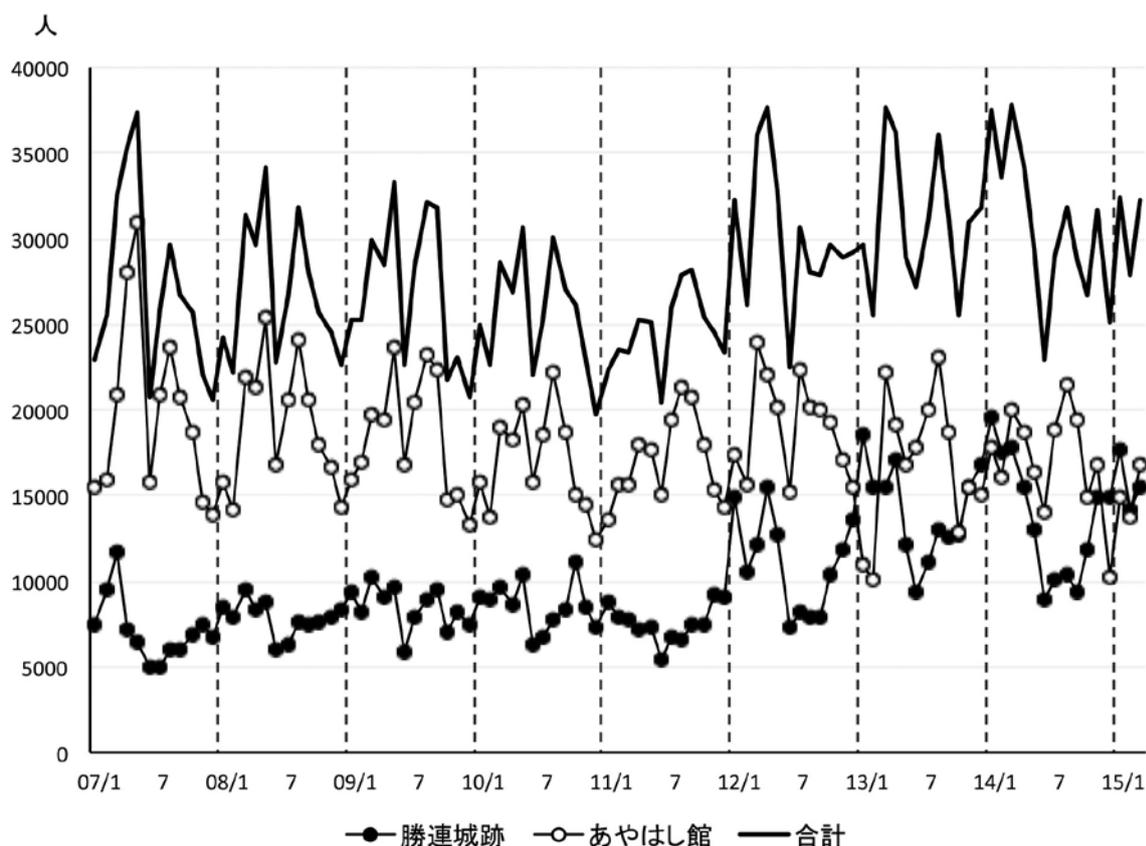


「勝連城跡周辺文化観光拠点整備事業」の経済波及効果(続)

1. うるま市の主要観光施設入場者数の推移

うるま市において県内外から多くの来場者が訪れる観光スポットとして海中道路と、架橋によって自動車での往来が可能となっている周辺離島があります。イチハナリーアートプロジェクトの開催で有名な伊計島をはじめ、シママースを製塩している宮城島や浜比嘉島などがあり、海中道路周辺はマリンレジャーをはじめとする観光関連スポットが多く立地するエリアとなっています。

図1 勝連城跡と海の駅あやし館の入場者数の月別推移



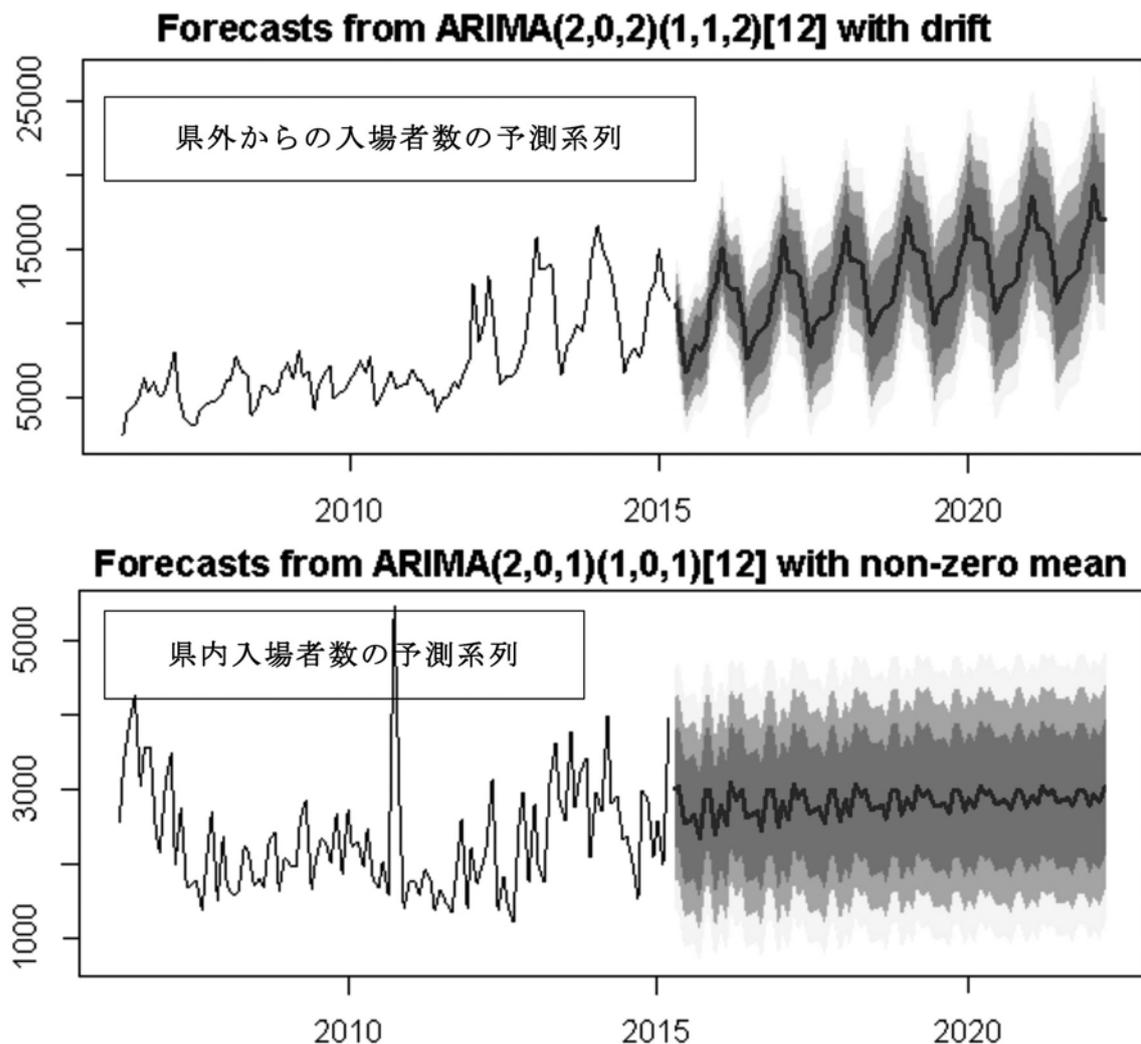
出所：うるま市、うるま市観光物産協会

図1はそのうち代表的な観光施設として海中道路に立地する海の駅あやし館と勝連城跡の入場者数及びその合計値をプロットしたものです。勝連城跡は休憩施設とうるまーのオープンにより2012（平成24）年以降は秋から春にかけての入場数が大きく伸びてい

ることが分かります。月平均で見ると2012（平成24）年より前が平均して8,000人台で推移していたのが、13,000人台と大きく増加していることが分かります。一方、あはやし館は夏場を中心に月平均17,000人前後で推移しています。両者を足し合わせると、勝連城跡から海中道路及び周辺離島エリアに毎月平均30,000人程度の来場者数があり、年間で35万人を超えるレベルとなります。

このエリアはうるま市において観光客をはじめ、県内各地からも人を集める力のあるエリアとなっており、勝連城跡の整備により更なる集客人数の増加が見込めるものとなっています。そこで勝連城跡の整備によって入場数がどの程度増加するか時系列モデルを用いて予測します。ここで採用する時系列モデルはARIMA（自己回帰和分移動平均）モデルといい、現在の値は過去の時系列変動の情報を反映して成立すると考えるモデルです。予測に使用するデータは月別の県内と県外それぞれの入場者数です。

図2 時系列モデルによる勝連城跡入場者数予測系列



予測結果を見ると県内からの入場数は微増かほぼ横ばいでの推移が見通されますが、県外からの入場者数は増加トレンドで推移していくことが予測されます。この予測結果には勝連城跡の周辺整備の情報は反映されていません。そこで休憩施設が整備された時に増加した入場者数の増加率を用いて、勝連城跡と周辺の文化観光施設が一体となって整備されたと仮定したときの入場数を予測します。

周辺文化観光拠点整備が実施された場合の増加率をシフトさせる要因として、2006年～11年までの平均入場者数と2012年～14年までの平均入場者数の差分をとり（表中のレベルシフト数）、その差分から2014年度の入場数に対する増加比率をとり、これをシフト係数として、将来予測結果にオンしています。

2016年入場者数＝2016年度入場者数（県内・県外別）×シフト係数

※シフト係数＝（2015年度入場者数＋レベルシフト数）／2015年度入場者数

表1 勝連城跡周辺文化観光拠点の入場者数の将来見通

	県内	県外	計
2006－11年平均	26,210	70,002	96,212
2012－14年平均	30,830	127,920	158,750
レベルシフト数	4,620	57,918	62,538
シフト係数（増加率）	115.2	146.1	140.1

ここでは上位計画である21世紀ビジョンの観光客1,000千万人の目標達成時期やうるま市観光振興ビジョンなどの情報を加味し、2021（平成33）年に施設が本格稼動すると仮定し、施設整備の総合効果は2021年度より発揮されるものと想定しました。

なお、施設の稼動には現在の休憩施設に加え、販売スペースや飲食スペースをはじめ、文化観光施設、伝統文化体験エリアが拡張され、勝連城跡のキャリング・キャパシティを考慮して入場料の徴収も追加されます。

消費支出に関する基礎資料はうるまーるで試験的に実施されており、購入比率は平均12.0%、客単価は平均542.1円となっており、この値を用います。また整備計画より販売、飲食スペースは現在の350.32㎡から、整備後は1,500㎡と、4.3倍の大きさになり、同時に文化・展示スペースも拡張、これに伴い、滞在時間の延長と消費支出増加が見込まれ、購入者比率は現状の12.0%から施設面積の拡張に比例して、4.3倍に増加すると仮定して、51.2%と想定しました。

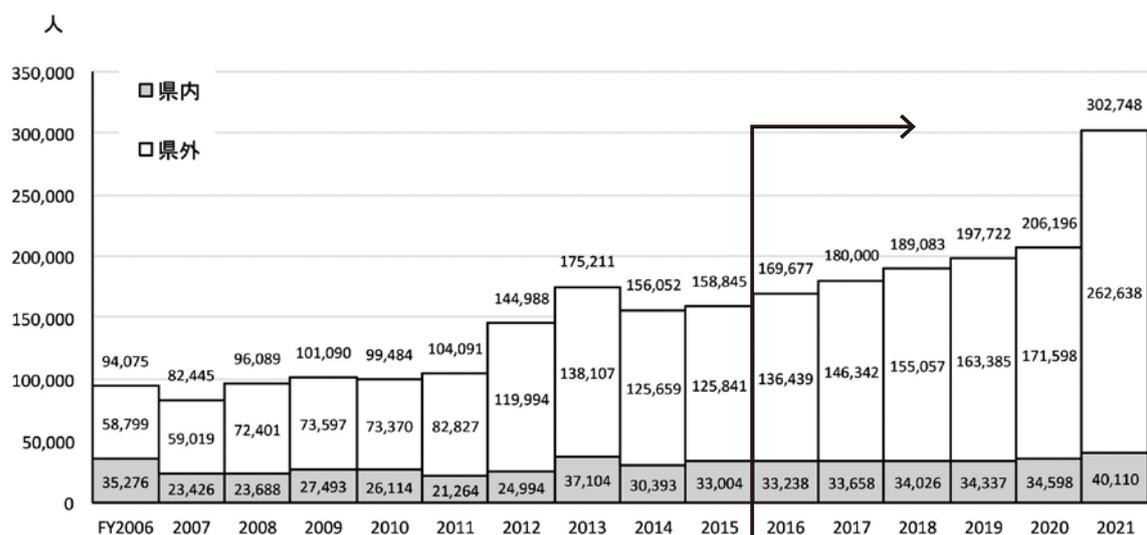
飲食費支出は平成26年沖縄県1人当たり観光消費額16,830円を、平均滞在日数3.84日、1日当たり2回の食事を想定し、1回の飲食費を2,191円と見積もりました。

入場料支払者の比率については首里城公園の入場者数のうち有料エリアへの入館者数が2007年以降78.1%となっていることから、この比率を用いました。入場料は2015（平

成27) 年現在で首里城が一般820円、中城城跡と今帰仁城跡が400円となっていることから、将来的には500円程度が妥当な値と想定しました。

図3は入場者数の月別予測結果を年単位に集計し、整備後の入場者数の増加数の見通しを示したものです。2021(平成33)年度は302,748人の集客が見込まれ、これに土産品、飲食費、入場料を乗じた結果、土産品への支出が83,979,375円となり、約8千万円の売上げが見込まれ、これに食事や飲料への支出である飲食費が339,476,724円、入場料が118,206,272円と見込まれます。その結果、総額541,662,371円となり、約5億円の直接支出による経済効果が見込まれます。

図3 勝連城跡周辺文化観光拠点整備が実施された場合の入場者数
※整備効果は2021年度以降を想定



2. 勝連城跡周辺文化観光拠点整備における観光関連支出の経済効果

土産品、飲食費、入場料について、沖縄県公表基本表より行部門・列部門を対応集計させた344部門産業連関表を生成、それぞれ対応する部門について格付けしました。また、商業マージン、運輸マージンについては全国表より当該部門の生産者価格表と購入者価格表の比率により按分しました。詳細については表2に示しています。

以上より、各種前提条件をにおいて推計された経済効果は、勝連城跡周辺文化観光拠点整備後の直接効果として2021(平成33)年度には直接効果として54,166万円の効果があり、これにより生じた企業間取引等による1次の生産誘発効果は32,519万円、さらにその結果企業や雇用者による消費により誘発される2次の生産誘発効果は24,957万円となり、総効果は111,643万円が見込まれます。総効果のうち粗付加価値誘発額は57,834万円、雇用者所得誘発額は28,065万円となります。

表2 経済効果算出のための部門格付け表

単位：円

観光消費 区 分	部門 コード	対応部門	生産者価格 変換済需要額
観 光	327	スポーツ施設提供業・公園・遊園地	118,206,272
飲 食	329	一般飲食店	149,594,101
飲 食	331	遊興飲食店	189,882,623
土 産	6	果実	4,404,852
土 産	34	肉加工品	3,199,351
土 産	36	酪農品	2,591,581
土 産	37	冷凍魚介類	4,117,822
土 産	46	菓子類	6,775,348
土 産	53	調味料	3,121,141
土 産	63	その他酒類	5,658,380
土 産	64	茶・コーヒー	1,520,496
土 産	65	清涼飲料	12,287,523
土 産	76	織物性衣服	2,535,608
土 産	78	その他の衣服・身の回り品	980,634
土 産	80	その他の繊維既製品	664,015
土 産	84	その他の木製品	211,556
土 産	129	陶磁器	361,345
土 産	133	その他の窯業・土石製品	322,030
商 業	243	卸	14,673,554
商 業	244	小売	17,665,929
運 輸	253	鉄道	33,444
運 輸	256	道路	2,432,391
運 輸	258	沿海	20,656
運 輸	259	港湾	28,210
運 輸	260	航空	17,231
運 輸	261	利用運送	110,772
運 輸	262	倉庫	245,504
合 計			541,662,371

表3 勝連城跡周辺分観光拠点整備後の経済波及

単位：万円

	直接効果	1次間接	2次間接	総 効 果
生産誘発額	54,166	32,519	24,957	111,643
粗付加価値誘発額	27,976	16,038	13,820	57,834
雇用者所得誘発額	15,757	6,760	5,548	28,065

図4は前回の建設効果と今回の観光関連支出等効果の推計結果を合計したものです。これより直接効果は86億3千万円が見込まれ、総効果は160億8.4千万円にのぼることになります。観光客の増加に向けた沖縄県中部の大型観光拠点としての勝連城跡周辺文化観光拠点整備事業は、沖縄21世ビジョンの目標値である観光客1千万人の実現に向けて大きなプロジェクトの一つといえるでしょう。

図4 勝連城跡周辺文化観光拠点運営効果の経済波及効果総括図

